

# 研究協力をお願い

昭和大学病院では、下記の臨床研究(学術研究)を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

透析導入患者におけるポリファーマシー対策に関わる研究

## 1. 研究の対象および研究対象期間

2020年1月1日から2025年12月31日までの間、昭和大学病院入院棟8階病棟に腎臓内科で入院した患者さん

透析導入(血液透析、腹膜透析)目的に入院した患者さん

## 2. 研究目的・方法

日本では、慢性腎不全(CKD)の患者さんの数が年々増加しています。CKDの患者さんは、病態の進行や合併症予防のために多くの薬剤を服用する必要があり、高齢化が進む日本において、ポリファーマシー(多剤服用)が薬剤有害事象の増加に関与していることが指摘されています。

ポリファーマシーとは、単に薬剤の服用数が多いだけでなく、薬物有害事象のリスク増加、服薬過誤、服薬アドヒアランスの低下といった問題を含む状態を指します。特にCKDの患者さんでは、病状の進行に伴いポリファーマシーの割合が高まることが報告されており、65歳以上の高齢者でCKDの重症度が高いG4およびG5の方では、84%から90%が多剤服用の状態にあります。また、水分摂取制限が薬剤服用に影響を及ぼし、疾患を悪化させる可能性があるというパラドックスも生じています。

このような状況を受け、2016年の診療報酬改定により「薬剤総合評価調整加算」が創設され、薬剤数の削減を目指した取り組みが進められていますが、実際には薬剤師の知識不足や時間の制約により、十分な介入が行われていない現状があります。

本研究では、透析導入目的に入院される患者さんにおける中止可能な薬剤を調査し、カルテ上のフォーマットを作成することで、薬物治療への介入および加算件数の変化を検討し、薬剤師の介入効果を高めることを目的としています。

## 3. 研究期間

昭和大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会審査後、委員会から発行される「審査結果通知書の承認日」より、研究実施機関の長の研究実施許可を得てから 2026年 3月31日まで

**4．研究に用いる試料・情報の種類**

入院日、生年月日、持参薬、退院処方、腎代替療法の種類、薬剤総合評価調整加算の有無

**5．外部への試料・情報の提供**

該当いたしません

**6．研究組織**

研究責任者	昭和大学薬学部 病院薬剤学講座	野末 哲未
研究分担者	昭和大学薬学部 病院薬剤学講座	吉川 雅之
	昭和大学薬学部 病院薬剤学講座	高橋 伸幸

**7．お問い合わせ先**

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象者としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和大学薬学部病院薬剤学講座

氏名：野末 哲未

住所：東京都品川区旗の台 1 - 5 - 8

電話番号：03-3784-8467